

事業所名		放課後等デイサービス なないろ				支援プログラム		作成日		R7	年	5	月	26	日	
法人（事業所）理念		それぞれ異なる7つの色が並んできれいな虹が出来るように、ひとりひとりの個性を大切にしながら、子供たちが楽しく過ごせる場所、保護者の方に安心して預けてもらえる場所を目指します。														
支援方針		様々な体験を通し、利用児童が何に、どこに困っているのかを把握し、合理的配慮、支援などを検討ながら、先の姿を見据えた支援をします。個別支援としてスモールステップでの日々の積み重ねを大切にしながら、集団の中で適応していけるよう、個別支援プログラム、集団プログラムを組み合わせ、社会との交流も大切にしていきます。一人一人の自己肯定感を育て、やってみようという意欲を引き出し、一緒に取り組みながら興味の幅や世界が広がるように支援していきます。また、ここに来ると「安心」できる居場所のような存在になれるよう、関わっていきます。														
営業時間		9	時	00	分から	18	時	00	分まで	送迎実施の有無		あり		なし	※送迎場所の検討など、相談可能。	
支援内容																
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 児童保護者や学校での姿を共有しながら、その時の利用児童の健康状態を把握し、各関係機関と連携を取りながら基本的な健康習慣を身に付けられるよう支援します。 日々の中での、食事や排泄、身支度や衛生面など様々な場面で、自立に向けて個々の姿と特性に配慮しながら支援していきます。 戸外での活動も取り入れ、健康的な身体を育てるようにします。 外出体験を通して買い物や金銭管理など、基本的な生活スキルの向上を目指し、個々に合った方法で取り組んでいきます。 体調管理として、衣服の調節や手洗いうがい、十分な休息や栄養バランスを整えられるよう、利用家族と連携して生活リズムをととのえるとともに、料理体験や手作りおやつ等の提供を積極的にいたします。 														
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において必要な基本的な動作や、姿勢保持に向けた体幹や体軸の獲得、個々の姿にあった運動プログラムを通して楽しく身体を動かしながら体力の向上に取り組めます。 粗大運動から微細運動など、全身の様々な部位を使って身体を動かす経験を日々の中で取り入れていきます。 様々な感触に触れながら感覚を刺激し、自然に触れる、音やリズムを感じる、工作を通して楽しむなどの機会を取り入れ、感覚の偏りなどの調整を行います。 戸外、体育館や体操教室などの広い場所を利用し、思い切り身体を動かしたり発散したりする機会も設けます。 力の調節や、協同運動などにも力を入れ、ゲーム感覚で楽しく身につけられるようにしていきます。 														
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 個々の姿や特性に合わせて学習支援をしていくとともに、日々の生活の中で数、数量、色、形、属性、日付、曜日などに触れ、認知の支援をします。 人と関わる中で生まれる感情を利用児童自身が把握し、どのようにその感情に向き合うのか、どのように行動すればよいのかを様々な方法で伝えていきます。誤学習のないよう、正しい行動を示しながら獲得できるようにします。 視覚優位、聴覚優位など、個々の姿に合わせて絵カードや写真を用いて支援していきます。 個別プログラムの中で個々の姿や特性に合わせて集中する時間を設け、空間認知による生活スキルを身につけていきます。 														
	言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 読み書き、発音明瞭度向上、語彙の獲得、個々の姿や特性に合わせた支援方法で取り組んでいきます。様々な世代の友達や大人と話すことでコミュニケーション能力の向上を目指します。 社会において必要な基本的な言葉のやり取りができるよう、場面と行動を結び付けし、成功体験を積んでいくことで自信と自己肯定感を育み、話すことの楽しさを感じられるようにします。 歌にもたくさん触れ、語彙や言語表現の幅を広げながら、楽しく語彙を獲得していけるようにします。 言語が難しい利用児童には、指差しや身振り手振り、利用児童が使用するサイン（マカトンサイン、手話など）や絵カード、PECSなどを使用し、言語に代わる方法でコミュニケーションが取れるよう支援します。 														
	人間関係社会性	<ul style="list-style-type: none"> 愛着形成をもとに、そこから得る心身の安定や他者への関わりへの積極性を育みます。 一人ひとりの発達段階を把握し、他者との距離感や関係性を構築できるよう支援します。 遊びや、公共施設などの外出先でのルールや、人や物へのやりとりを通して様々な社会性の向上を支援します。 利用児童が自分の思いを表出したり、自己選択、自己決定する経験を通し、自己肯定感や自信に繋げ、人間関係を築きやすいように支援します。 人の模倣をすることで獲得される行動や、遊びの中で模倣遊び（見立て遊び、つもり遊び、ごっこ遊び、役割分担、ルールのある遊び）を楽しみながら習得される人間関係や社会性の向上を支援します。 自分自身の特性や姿を把握し、負の感情の際にどのように向き合うか、どのような行動をとれば良いのか、どのように切り換えた方が良いのかなどの対処法を一緒に考えます。また、様々な手段があること、自分自身で抱える必要はなく、他者に頼って良いことを伝えていきます。 利用児童の居場所となれるよう、安心・安全に過ごせる環境を整えます。 														
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 事業所、学校、家庭の姿を共有するため、児童保護者を面談の機会を6カ月に1回以上設けます。日々の連絡帳などで事業所での姿をお伝えします。 児童家族からの相談に対する適切な助言をし、支援方法を共有します。 必要に応じて送迎場所や延長支援など、相談の上利用可能です。 メンタルヘルスや不登校など、成長に伴っての課題について児童保護者と話し合い、心身のサポートをします。 					移行支援			<ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブ、他事業所併用利用、相談支援員など、様々な関係機関と密に連携を取りながらより良い支援に繋がります。 進学や就労など、ライフステージに沿った先を見据えたアドバイスなどをし、引継ぎなどをしっかりと行います。 地域の就労支援施設などの体験を取り入れたり、移行に繋がる経験をしながらかスムーズに移行できるよう支援します。 							
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 児童保護者、学校、相談支援員、他事業所併用児童の場合利用事業所など、関係機関との連携を密に取りります。 地域のイベントの参加や、居場所づくりをされている団体などとの地域交流、公共施設の利用を積極的に取り入れ、社会性の向上を図りながらインクルーシブの機会を向けます。 必要に応じて地域生活に関する保健・医療・福祉・教育などの関係機関、障がい福祉サービス事業所との連携を行います。 虐待などが疑われる場合には児童相談所や子ども家庭センターとの情報連携を行います。 					職員の質の向上			<ul style="list-style-type: none"> 研修や資格取得支援、共有の場を積極的にに行います。 地域の関係機関主催の研修に参加するなどし、専門的な方の話を聞く機会、訪問していただく機会、訪問・見学させていただく機会を設け、支援のアドバイスなどを受けて質の向上を図ります。 利用児童や児童家族の様子、日々の支援から見えたものなどを共有する場を設け、共通した関わりを意識することで支援の質を高めます。 							
主な行事等	誕生日会、調理体験、音楽による表現活動、制作による表現活動、外食体験、外出、買い物体験、工作、公園や散歩などの戸外活動、野菜や花の栽培、カレンダーに沿った行事やイベント、地域のイベントに参加する機会、中高生による職場体験や就労支援施設体験、果物狩りなど。															